

其の他協調會理事たる委員として、會長公爵徳川家達副會長床次竹次郎、同男爵中島久萬吉、池田宏、大橋新太郎、酒津暹、神戸正雄、河原田徳吉、吉田茂、谷口留五郎、田澤義鋪、田子一民、添田敬一郎、塚本清治、男爵松岡均平、氣賀勘重、湯澤三千男、塩澤昌貞、男爵四條隆英、関一、諸氏、幹部として本會職員たる町田辰次郎、鈴木誠治、長岡保太郎、増田作太郎、松村勝三郎、富田文之七の諸氏が就任した。而して、本年員會の目的は同委員會規程によれば、**「時局對策委員會は時局に關する重要事項を調査審議する」**とのためであつたが、同月五月三十一日第一回總會の開催と同時に同委員會は成立

し、子爵岡部長景氏を委員長として協議の結果、時局對策委員會の審議の範圍として、**對滿蒙政策、二、産業窮乏打開策、三、農村窮乏打開策、四、失業對策、五、産業平和政策、六、思想對策、七、政治機構の七項目に決定した。**

斯くて、昭和七年五月の設置以來、昭和九年十月の吉田常務理事の辞任に至るまでの三箇年に亘つて時局對策に關する常置的調査審議機關として存在し、その間總會と開催すること十有八回、其他多くの特別小委員會を開催し、逐次昭和七年六月には**「農村友が都市に於ける窮乏の事情に鑑み特に緊急を要する救濟事業に關する決議」**、昭和七年八月には**「農村窮乏打開策」**、昭和七年十月には**「中小工業窮乏打開策」**、昭和八年五月には**「滿**